



遠野市では子ども達の「生きる力」を育むため、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を目指し、学校運営協議会制度（通称コミュニティ・スクール：CS）を設置しています。令和7年度もまとめの時期となりました。今年度実施した地域学校協働活動についてお知らせします。

## 遠野中学校部会より

各自治体に生徒が出向いて奉仕活動を行う「クリーン作戦」や、建設業協会主催のふれあい事業として作業機械の乗車体験、VR体験を行いました。またキャリア教育として1年生はキャリア講話の「遠野人から学ぼう」、2年生は「職場体験」、そして全校生徒の中で希望者対象の「遠野人と語ろう」ではグループワークを行い、多様な地域の方と触れ合いながら人生観や職業観を養いました。「遠野人と語ろう」については裏面に詳細を記載しておりますのでご覧ください。



クリーン作戦

## 遠野小学校部会より

図書(19名)・放課後学習(16名)・ミシン(9名)等のボランティア活動や、防犯・見守り活動が充実しました。特に学習発表会「遠野の里の物語」の総練習の一般公開で、このすばらしい伝統の行事を約100名の方々にご覧いただけたことは成果の一つです。また、第2回部会に合わせて家庭教育ゼミナールを、第3回部会に合わせて立会い演説会の参観と懇親会を企画し、児童の立派な姿を見ていただくとともに、学校と地域がより密接に協力し合える体制も整えることができました。



遠野の里の物語

## 遠野北小学校部会より

遠野北小学校では、地域連携を通じて多様な支援を展開しました。ミシンや図書ボランティア、ロードレースの見守り等により安全・充実した学習環境を整えたほか、伝統の薬研太鼓指導では児童・教師共に技術向上を図りました。初の試みとして「ミニ熟議」を開催し、地域意見を学校経営に反映させる体制を構築。課題としてボランティアの固定化や参加者減少が挙げられ、今後は募集方法や継続的な連携体制の工夫が求められます。



ミシンボランティア

## 綾織小学校部会より

学校支援ボランティア「綾小お助け隊」の発足により、地域学校協働活動が活性化しました。授業や行事への参画を通じ、児童の学習意欲や粘り強く取り組む姿勢、助言を素直に受け入れる態度が育っています。また、地域の方との交流は、郷土愛や感謝の心を育む貴重な機会となりました。挨拶運動も実を結び、場所や相手を問わず自ら挨拶する意識が向上。地域に見守られている安心感が、子どもたちの健やかな成長を支えています。



あいさつ運動

## 附馬牛小学校部会より

附小応援隊の活動として清掃や図書ボランティア、徒歩通学の見守りを行いました。学習発表会で語り部活動もご披露でき、しし踊り体験やふるさと村での田植え、餅つき、縄ない体験や、市立博物館やトヨタの出前授業、コロニーとの交流、パラバドミントン体験など、地域や保護者との連携が図られました。地区センターとの協力が継続しつつ地域への周知を強化して登録者を増やすとともに、祖父母交流会の実施や学習支援の活性化を目指します。



親子縄ない体験

## エリアコーディネーターより

1月17日、「地域で子どもを育てる活動発表会」が開催されました。遠野西中学校の生徒会が自主的に地域へ出向き合唱を披露した実践報告には、深い感動を覚えました。続く文科省CSマイスターの猿渡先生の講演では、教育の目的が「地域の担い手」から「創り手」の育成へと進化していることを学び、活動の意義が明確になりました。混迷の時代、子どもたちだけでなく我々大人もまた、地域の創り手として学び続ける姿勢が重要であると強く再認識する機会となりました。



地域で子供を育てる活動発表会

# 「熟議」、広がる！

コミュニティ・スクールにおける「熟議」は、学校・家庭・地域が共通の目標を形成するための要です。多様な立場の者が対話を通じて地域の教育課題を共有し、当事者意識を持つことで、単なる「支援」を超えた協働体制が生まれます。学校のビジョンに地域住民の声を反映させる過程で信頼関係が深まり、持続可能な学校経営と地域づくりを一体化させる原動力となります。

## 「遠野人と語ろう」12/23 遠野中学校部会

キャリア教育の一環として、遠野で活躍する方々と「遠野の未来」を考える対話会を開催しました。当日は地域住民16名と1～3年生22名が参加。5名1組のグループに分かれ、アイスブレイクを経て3つの議題で対話を深めました。第1ラウンドで「遠野の特徴」を共有した後、第2ラウンドで「理想の遠野」を語り合い、第3ラウンドではその実現に向けたアイデアを出し合いました。参加者からは「JK通り」「キノコ狩りツアー」「スポーツパブ」「VR河童釣り」など、自由でユニークな提案が次々と飛び出しました。事後アンケートでは満足度が99%に達し、「実現できそうなことがたくさんあったし、みんなと話し合うのがとても楽しかった」という生徒の声や、「中学生や高校生を巻き込んだイベントをやりたい」「仕事へのヒントをたくさんもらった」という地域の方の感想が寄せられました。対話を通じて地域の魅力と課題を再発見し、主体的に解決策を模索して自分の言葉で発信する、非常に有意義な機会となりました。



## 「まなびフェスト検討ミニ熟議」1/28 遠野北小学校部会

第3回学校部会に合わせてミニ熟議を開催しました。そもそもまなびフェストとは、特に重視して目指すべき成果や取組について、定量的・定性的な具体目標を設定したもので、学校と児童生徒、家庭・地域が共有して達成に努めるとされています。今までは学校でのみ協議・検討していたものを、この趣旨に従い、保護者や地域の方にも加わってもらおうと開催したものです。第1ラウンドでは「理想の北小」を、現行まなびフェストの区分に従い知・徳・体・奉仕に区切って挙げてもらい、そして第2ラウンドではその理想を達成するために改善できる項目を挙げてもらいました。「学校では・子供は・家庭では」の下に「地域では」を追加し、地域でできることも考えました。親の方が子どもより早くおはようと言がけする・学校の清掃の時間に地域の方も混ざって掃除する・薬研太鼓をもっと盛んにする・児童自身が先生となって教える「こども授業」をしては・感謝の言葉をポイント化するありがとう運動・朝にラジオ体操をしたらいいのではないかな等、様々な意見がでました。



## 「話し合おうふるさと綾織」11/20 綾織小学校部会

家庭教育セミナーの時間を活用して、児童、保護者、地域の方でグループワークを開催しました。テーマは「話し合おうふるさと綾織」。まず初めにアイスブレイクとしてトークフォークダンスを実施。ドーナツ状に2列に並べた椅子に向き合って座り、テーマごとに次々と話す相手を変えていきます。子どものころによくやった遊びをテーマに話したときは、泥団子づくりのエピソードなどで盛り上がりました。第1ラウンドは綾織町または綾織小学校の素晴らしいところ、自慢したいところを出し合ってもらいました。緑が豊かで静かなところ、風の丘や桜並木、パラグライダーができる、駒形神社の算額などの他に、なかにはローソンで一番くじが出やすいという意見も。第2ラウンドでは未来の綾織、こうなったらいいな、こうしていきたいなを意見交換。ずっと自然豊かであってほしいという意見や、鼓笛隊が続いてほしい、人口が増えてほしいなどの意見が出されました。子どもたちが綾織のことを本当に好きなんだと思わせられる、和やかな会でした。



遠野中学校区学校運営協議会 エリアコーディネーター

多田 宜史 (担当: 遠野中・遠野北小・附馬牛小) 090-9033-5513 (代) / 伊賀美恵子 (担当: 遠野小・綾織小)

◆こどもの為に活動したいという方は、是非情報をお寄せください！